道有林野事業評価

上川南部管理区評価

令和3年10月作成

上川総合振興局南部森林室

別記様式２
○管理区評価調書

１　森林の整備に関する事項
（１）森林の整備
ア　森林資源の状況

区分			単位	計画期首	計画期末	増減
人工林	育成単層林	面積	ha	9,507	9,575	68
		蓄積	千m3	2,043	1,995	-48
	育成複層林	面積	ha	998	904	-94
		蓄積	千m3	136	192	55
	計	面積	ha	10,506	10,479	-26
		蓄積	千m3	2,179	2,186	7
天然林	天然生林	面積	ha	23,320	23,346	26
		蓄積	千m3	3,664	4,087	423
その他	未立木地等	面積	ha	3,046	3,046	0
		蓄積	千m3	0	0	0
計		面積	ha	36,871	36,871	0
		蓄積	千m3	5,843	6,273	430

※「計画期首」は前期計画の期首、「計画期末」は前期計画の期末（以下同じ）。

イ　計画量の実行状況

区分			単位	計画 (A)	実績 (B)	実行率 (B)/(A) %
伐採	人工林	主伐	千m3	101.7	101.9	100
		間伐	千m3	147.9	137.4	93
		計	千m3	249.6	239.3	96
	天然林	主伐	千m3	2.5	2.8	112
		間伐	千m3	0.5	2.4	480
		計	千m3	3.0	5.2	173
	計	主伐	千m3	104.2	104.7	100
		間伐	千m3	148.4	139.8	94
		計	千m3	252.6	244.5	97
造林	人工林	人工造林	ha	495.0	536.0	108
		天然更新	ha	0.0	0.0	
		計	ha	495.0	536.0	108
	天然林	人工造林	ha	72.0	35.0	49
		天然更新	ha	100.0	65.0	65
		計	ha	172.0	100.0	58
	計	人工造林	ha	567.0	571.0	101
		天然更新	ha	100.0	65.0	65
		計	ha	667.0	636.0	95
路網 (開設)	林業専用道		km	15.9	9.8	62
	森林作業道		km	0.6	0.6	100
	計		km	16.5	10.4	63

※「計画」は前期計画（以下同じ）の計画量である。

ウ　評価指標

（ア）伐採材積の実行率　（千m3、%）

計画	実績	実行率
252.6	244.5	97

※伐採実績総量の計画総量に対する割合

（イ）間伐面積の実行率　（ha、%）

計画	実績	実行率
2,180	1,697	78

※計画期間における間伐実績総量の計画総量に対する割合

（ウ）路網密度　（m／ha）

計画期首	計画期末	増減
9.4	9.4	0

※計画期首と計画期末における路網密度

（エ）人天別森林蓄積　（m3／ha）

区分	計画期首	計画期末	増減
人工林	207	209	2
天然林	157	175	18
平均	158	170	12

※人工林、天然林別のha当たり蓄積

（オ）育成複層林など多様な森林に誘導する人工林面積　（ha）

区分	計画期首	計画期末	増減
育成単層林	2,124	2,242	118
育成複層林	895	904	9
計	3,019	3,146	127

※5ha以下の単層林施業と複層林施業の合計実施面積

エ　課題（評価指標の分析等）

当管理区では、森林面積の29%を占める人工林において、森林の公益的機能の維持増進を図るという基本的な考え方の下、地形が緩やかで路網が整備されているなど効率的な施業が可能な箇所において主伐・再造林を積極的に進め、森林資源の循環利用に率先して取り組み、森林の多面的機能を持続的に発揮する森林づくりに努めました。

（ア）人工林の主伐及び間伐を計画的に進め、地域における木材の安定供給に努めました。なお、事業の実施にあたっては、最大で5haの伐採とするほか、渓畔林にある森林の伐採は避けることや、集材路の付け方を工夫するなど土砂流出を最小限に留めることで、生物多様性の保全に配慮するなど公益的機能の発揮に取り組みました。

（イ）間伐は列状間伐を積極的に導入し、計画的な実行に努めてきたが、実査の結果面積減となりました。

（ウ）路網については、計画的な施業の実行のため、路網整備と人工林施業を一体的に進めました。

（エ）公益的機能の維持増進を図る基本的な考え方の下で森林整備を行い、森林蓄積は維持されています。

（オ）計画的かつ適切な森林整備・管理により、育成複層林施業など、多様な森林への誘導を進めました。

オ　今後の対応方向

トドマツは高齢化に伴い腐朽が進み、木材としての利用価値低下の恐れがあるほか、箇所によっては広葉樹の更新が見られるため、現況に応じた人工林の施業区分を設定し、区分に応じた適切な施業を実施していきます。
資源が回復しつつある天然林においては、抜き伐りやかき起こしを実施するとともに、給餌木となる木については保残し、多様な樹種や樹齢で構成され、多段階な樹冠層からなる連続的複層林を目指します。

（２）森林の保全

ア　取組内容

エゾシカや野ねずみによる森林被害を防止・軽減する取組みを行いました。

イ　評価指標

（ア）エゾシカ森林被害実面積　　(ha)

前計画	現計画	増減
3.46	0	-3.46

※エゾシカによる食害等の森林被害実面積
「前計画」は前計画期間の前期、「今計画」は現計画期間の前期である（以下同じ）。

ウ　課題（評価指標の分析等）

エゾシカによる森林被害の防止・軽減を図るため、一般狩猟等の安全対策及び林道除雪等による捕獲環境を整備し、道有林を活用したエゾシカ捕獲を進めました。

エ　今後の対応方向

エゾシカによる森林被害を軽減するため、引き続き、エゾシカ被害防止対策を進めていきます。

（３）林産物の供給

ア　取組内容

地域のニーズや森林認証材、木質バイオマスの需要などを踏まえ、地域の事業者等と協定を締結し、計画的に木材を供給しました。

イ　評価指標

（ア）協定販売件数（延べ）　　(件)

前計画	現計画	増減
20	16	-4

※協定販売による契約件数

ウ　課題（評価指標の分析等）

地域の事業者等と協定を締結し、林地未利用材や低質材を木質バイオマスエネルギー用燃料として有効活用する取組みを実施しました。

エ　今後の対応方向

引き続き、道産木材の普及と活用を図るため、地域の事業者等と協定を締結し、木材を安定的に供給していきます。

（４）地域と連携した森林施業等

ア　取組内容

道有林の地域貢献として、広葉樹資源の育成と持続的な利用の検討に取り組みました。また、道有林に隣接した一般民有林（町有林）の被害木整理を進めるため、道有林の路網や土場を共同で利用する共同施業を行いました。

イ　評価指標

（ア）共同施業等の件数　（件）

前計画	現計画	増減
0	1	1

※共同施業、共同出荷、路網等の共同利用の実施件数

ウ　課題（評価指標の分析等）

道有林の路網等を活用することで、一般民有林（町有林）の被害木整理の実施が図られました。

エ　今後の対応方向

引き続き、道有林の路網等を活用した一般民有林の施業について、市町村と連携しながら進めます。また、地域のニーズを把握し、伐採事業者、製材事業者、加工事業者の共同での提案を想定した立木協定販売を活用して、木材を供給していきます。

（５）森林施業の低コスト化

ア　取組内容

重労働な人力作業が主体となる植栽について、軽労化や低コスト化の取組みを行いました。

イ　評価指標

（ア）機械作業を前提とした人工林の造成面積（ha）

前計画	現計画	増減
42	91	49

※機械作業を前提とした人工林の造成面積

ウ　課題（評価指標の分析等）

傾斜が緩く効率的な作業が可能な箇所で、機械による地拵及び下刈を実施し、労務の軽減を図りました。

エ　今後の対応方向

傾斜が緩く効率的な作業が可能な箇所では、引き続き、機械による地拵を実施し、下刈作業の省力化に繋がるよう、成績の良いカラマツ類についても植栽していきます。

（６）林業事業体等の育成

ア　取組内容

地域の素材生産を担う林業事業体の育成を目的として、計画的な雇用の確保や設備投資等を促進するための長期的かつ弾力的に立木販売する「長期安定供給販売（協定販売）」を実施しました。

イ　評価指標

（ア）長期安定供給販売量の割合　　（量：m3、割合：%）

区分	計画期首	計画期末	増減
総販売量	50,096	53,800	3,704
長期安定供給販売量	5,845	15,400	9,555
割合	12	29	

※立木販売総量に対する長期安定供給販売量の割合

ウ　課題（評価指標の分析等）

高性能林業機械の新規導入が図られ素材生産性が向上したほか、通年雇用者の増員や若い担い手の育成が図られました。

エ　今後の対応方向

引き続き、地域の素材生産を担う林業事業体を育成していきます。

2　森林の管理に関する事項

（1）取組内容

　公有財産としての道有林を適正に管理するとともに、入林者の安全を確保するため林野火災の警防や林道施設の定期的な安全点検を、高山植物等の不法採取や廃棄物の不法投棄等の違法行為を防止するため効果的な巡視活動や監視カメラの設置などを実施しました。
　また、保安林等の適切な管理や入林者の利便性の向上に取り組みました。

（2）評価指標

ア　林野火災の発生件数　（件）

前計画	現計画	増減
0	0	0

※林野火災の発生件数

（3）課題（評価指標の分析等）

　林野火災の警防のほか、境界標の保全・復元、高山植物等の不法採取や廃棄物の不法投棄等の違法行為を防止する巡視活動や監視カメラの設置、林道ゲートの保守・保全を実施しました。

（4）今後の対応方向

　公有財産である道有林を適正に管理する取組みを、継続していきます。

3　森林の活用に関する事項

（1）取組内容

　道有林が有している特色のある自然景観や本道を代表する観光資源を活かして、森林レクリエーションや観光等に利用されるよう遊歩道の整備などを行いました。
　また、森林体験学習や森林ボランティア活動、林業現場見学等、木育活動の場として道有林のフィールドを積極的に提供しました。

（2）評価指標

ア　入林者数　（人）

区分	前計画	現計画	増減
レクリエーション、調査・測量等	72,641	78,502	5,861
狩猟	632	468	−164

※計画期間における道有林野への入林者数

イ　木育活動参加人数　（人）

前計画	現計画	増減
500	161	−339

※道有林野をフィールドとした木育活動等の参加人数

（3）課題（評価指標の分析等）

　新型コロナウイルス感染症により各種イベント等の激減など影響はありましたが、森林レクリエーションや木育活動のフィールドとして道有林の活用を図りました。

（4）今後の対応方向

　地球温暖化などの環境問題に対する意識の高い道民に向けて、森林づくりに対する理解と参加を促していきます。

4　道民との合意形成

（1）道民意見の把握

ア　目的

　地域住民の理解と協力を得ながら、地域に根ざした道有林の整備管理を進めるため、森林づくりに対する道民の意識やニーズを把握します。

イ　調査方法

　地域住民に対する現地説明会の開催や各種イベント参加者に対するアンケート調査を行います。

ウ　評価指数

（ア）道有林の管理運営に対する満足度　（%）

区分	満足	まあ満足	どちらでもない	少し不満	不満	計
回答数	17	32	21	5	0	75
割合	23	43	28	6	0	100

※地域住民へのアンケート調査結果より

エ　課題（評価指標の分析等）

　６割以上の方たちが「満足」「まあ満足」と回答されましたが、３割程度の方が「どちらでもない」と回答されました。
　また、一部、不満を感じられている方もいることから、今後も広く地域住民や道民の皆様から意見を求め、道有林野事業に反映できるよう努めていきます。

（2）管理区評価現地説明会の開催

開催年月日	主な内容（発言内容）	参加人数	主な参加者
令和3年 (2021年) 10月4日(月)	・天然林施業において、選木や伐採の技術の継承についてどのようにお考えか ・林業から環境面までバランス良く盛り込まれた計画ではあるが、その言葉が抽象的なので、どの地域でどのような事業が具体的に行われるのか、見えるような記載をしてほしい ・生物多様性に配慮した施業を、徹底してほしい ・このような（地域住民に説明する）機会を多くしてほしい ・天然林の更新事業を、長期間で継続してほしい ・上川管内には多数の家具業者が頑張っているので、広葉樹の供給を継続してお願いしたい	17人	環境保全活動団体 指導林家 中核事業体

5　総括（森林の整備・管理に関する課題と今後の方向性）

　森林の公益的機能の維持増進を図るため、機能に応じた森林の整備に努め、列状間伐や機械地拵の実施など施業の低コスト化や軽労化に取組むとともに、地域のニーズに応じた原木の安定供給を進めました。また、森林の多様な利用を推進するなど、森林づくりへの道民理解の促進に取り組みました。
　今分期の取組みを踏まえ、今後は、11齢級以上の利用期を迎える高齢化林分の増加による齢級の偏りを解消するため、人工林施業区分を設定し、その区分に応じて計画的に主伐・再造林を進めていきます。また、天然林資源を把握した上で伐採・更新の促すなど、天然木の有効活用、天然力を活用した森林づくりに努めていきます。